

本文

※例文は学習用に作成しています。

- ① これは唐土より渡り侍りし琴に侍り。
- ② 「客人はいつくにかおはします」「西の対にこそ候へ」
- ③ 帝の御前に夜昼候ひて、片時も離れ奉らず。
- ④ 「御文を確かに賜り候ひぬ」と使ひの申し侍り。
- ⑤ かかる山里にも、をかしき花は咲き侍りけり。
- ⑥ 「殿はただ今出でさせ給ひて、こなたには候はず」と申す。
- ⑦ 翁、竹を取ることに久しくなり侍りぬ。
- ⑧ 「御供に候ひし者どもは、皆まかり帰り候ひぬ」と奏す。
- ⑨ この事、ゆめゆめ人に語り給ふな、と申し候ふ。
- ⑩ 雪のいと高う降りたる朝、火桶など持て参り侍りき。
- ⑪ 「われも年ごろ御前に候ひつれど、かかる事は知り侍らず」と言ふ。
- ⑫ 「いとうれしき仰せに侍り。必ず参り候はむ」と返事す。
- ⑬ 大臣、内裏に候ひ給ひて、夜更くるまで政（まつりごと）を定め給ふ。
- ⑭ 「この笛は亡き父の持たれ侍りし物にて候ふ」と泣く泣く語る。
- ⑮ 「明日は雨も降り侍りぬべし。御出では延べさせ給へ」と申し上ぐ。
- ⑯ 山深く住み侍れば、訪ふ人もまれにこそ侍れ。

設問

1. 傍線①「渡り侍りし」「琴に侍り」の二つの「侍り」は、それぞれ丁寧語・謙譲語のいずれか。また本動詞・補助動詞の別も答えよ。
2. 傍線②「西の対にこそ候へ」の「候へ」は丁寧語か謙譲語か。理由とともに答えよ。
 - この「候へ」を現代語訳せよ。
3. 傍線③「御前に夜昼候ひて」の「候ひ」は丁寧語か謙譲語か。
 - そう判断できる根拠を、敬意の方向にふれて述べよ。
4. 傍線④「賜り候ひぬ」の「候ひ」は本動詞か補助動詞か。また丁寧語か謙譲語かも答えよ。
5. 傍線⑤「咲き侍りけり」の「侍り」は本動詞か補助動詞か。現代語訳も示せ。
6. 傍線⑥「こなたには候はず」の「候は」は丁寧語・謙譲語のいずれか。本動詞・補助動詞の別も答えよ。
7. 傍線⑦「久しくなり侍りぬ」の「侍り」を現代語訳せよ（「～ます」の形で）。
8. 傍線⑧「まかり帰り候ひぬ」の「候ひ」は丁寧語か謙譲語か。本動詞・補助動詞の別も答えよ。
9. 傍線⑨「申し候ふ」の「候ふ」は誰の誰に対する敬意か。話し手・聞き手の関係をふまえて答えよ。
10. 傍線⑩「持て参り侍りき」の「侍り」は丁寧語か謙譲語か。本動詞・補助動詞の別も答えよ。

11. 傍線⑪の「御前に候ひつれ」と「知り侍らず」について、それぞれ丁寧語・謙讓語のいずれかを判別せよ。
 - 「候ひ」と「侍ら」で用法が異なる理由を簡潔に述べよ。
12. 傍線⑫「仰せに侍り」「参り候はむ」の二つの語は、それぞれ本動詞か補助動詞か。
13. 傍線⑬「内裏に候ひ給ひて」の「候ひ」は丁寧語か謙讓語か。「給ひ」が付いていることも手がかりに説明せよ。
14. 傍線⑭「持たれ侍りし」「物にて候ふ」の二つの語の、丁寧語・謙讓語の別と、本動詞・補助動詞の別を答えよ。
15. 傍線⑮「降り侍りぬべし」の「侍り」は丁寧語か謙讓語か。誰への敬意かも答えよ。
16. 傍線⑯「住み侍れば」「まれにこそ侍れ」の二つの「侍り」について、本動詞・補助動詞の別をそれぞれ答えよ。
 - 「まれにこそ侍れ」を現代語訳せよ。
17. 本文中の「侍り」「候ふ」のうち、現代語の「ごぞいます」に当たる本動詞の丁寧語の例を、番号で二つ挙げよ。
18. 本文中の会話文・手紙文では、なぜ丁寧語が多く用いられているのか。聞き手・読み手との関係にふれて説明せよ。
19. 「侍り・候ふ」が丁寧語か謙讓語かを見分けるための着眼点を、二点に整理して記述せよ。
20. 次のうち、補助動詞の「侍り・候ふ」をすべて選び、番号で答えよ。
 - (あ) 咲き侍り (い) 琴に侍り (う) 御前に候ひ (え) なり侍り (お) 西の対に候へ
21. 傍線⑫と傍線⑬では、ともに「候ふ」が用いられているが用法が異なる。両者の違いを、敬意の対象の観点から説明せよ。